2019 年度
活動報告書

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム

目次

報告書の発刊に当たって（巻頭言） …1

1.みずしま滞在型環境学習コンソーシアムについて …2
設立宣言（2018 年 3 月）
目的
組織体制

2.事業内容
2-1　ライデン大学研修受入（5/29） …5
2-2　岡山大学実践型社会連携授業（8/29-31） …6
2-3　ミズシマ・パーキングデイの実施（8/30） …8
2-4　水島学講座（国際編）「海外に出て見えたこと」（9/14） …9
2-5　高梁川ミーティング in 水島（9/27） …11
2-6　モデルツアー「SDGs を現場で学ぶ」（11/23-24） …13
2-7　倉敷古城池高校の取組 …18
2-8　小・中学生向け教材開発 …21
2-9　地域づくりサロン（6/28） …23

3.シンポジウムの開催（11/8） …24

4.外部への働きかけ
4-1　広報・情報発信 …25
4-2　マスコミ報道 …27

5.今後の展望 …28

報告書の発刊に当たって（巻頭言）

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム
会長　　萩原　邦章

2018 年 3 月に設立された本コンソーシアムも、まもなく 2 年間の活動を終えようとしています。振り返ってみますと、試行錯誤を繰り返しながら進んできた日々でありましたが、日を重ねるごとに、学習プログラムのメニューも増え、内容的にも充実が図られ、一歩一歩ではございますが、成果を挙げつつあることが実感できるようになってまいりました。このような成果を上げるに至りましたのも、ひとえに、私どもの活動を理解し、弛みない声援をお送りくださった関係者の方々のご支援ご協力のお蔭でございます。先ずは、これまでに賜りました多大なご支援ご協力に対しまして、篤く御礼申し上げます。何れにしましても、コンソーシアムの掲げております目標は大きく、一足飛びにゴールインすることは難しいと思われますが、この 2 年間で培ってきた関係者の皆さま方との絆を活動の基盤とし、協働の輪を、更に広げ、尚一層強固なものにしていく為に、怯むことなく歩を進めて参る所存でございますので、変わりませぬご支援ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

1. みずしま滞在型環境学習コンソーシアムについて

設立宣言（2018 年 3 月）

発起人代表　萩原 邦章

全国で地方創生の取組みが進むなか、高梁川流域では、昭和 29 年に大原總一郎氏らによって設立された高梁川流域連盟の理念を礎として、時あたかも、倉敷市が高梁川流域中枢拠点都市となり、流域圏の七市三町に暮らす隣人たちが手を携えて、地域の明るい未来を創るために産官学民が連携して多様な活動を展開しています。

また、市民活動の視座からは、平成 15 年から流域の環境教育を中心に活動を続ける GREEN DAY の成果を反映して、平成 27 年度に（一社）高梁川流域学校が、さらに、平成 25 年度には水島で「環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会」が設立されました。

そして、平成 28 年度には、倉敷での G7 教育大臣会合を契機に、ローカルサミット in 倉敷おかやまが開催され、国内外を問わず高梁川流域での取り組みに注目が集まり、この潮流に呼応して、高梁川流域の市民・企業・行政・大学などが一堂に会したシンポジウム「世界一の環境学習のまち みずしまを目指して」において、滞在型環境学習プログラムが提案されたところです。

こうした高梁川と瀬戸内海が育んできた水島の豊かな自然や環境、歴史・文化・風土、暮らしや水と命、そして企業活動が生み出す英知を結集し、また、倉敷が日本遺産に登録された時宜を得た地方創生への気運の高まりを活かして、本格的な滞在型環境学習プログラムを企画・実施することにより、地域はもとより世界の子供や若者たちに、人類と自然が織り成す地域社会の素晴らしさを伝え、世界一の環境学習のまち“みずしま”の創造をめざします。

本年３月、地域で働き、暮らすことへの誇りと情熱に溢れる次世代人材を育成するために「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」の設立により本格的な活動を展開します。

持続可能社会の未来をみつめ、高梁川流域を守り育てる活動を展開しておられる皆様方のご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

目的

高梁川流域において、持続可能な地域づくりを担う人材を育成する

- 今後ますます増加が見込まれる ASEAN・中国等からの留学生の学びのフィールド
- 地域で生まれ育つ子どもが、地域の自然・文化・暮らしに触れ、地域への愛着を持つ

⇒ **地域社会の持続可能性の発見**

⇒ **地域を愛し、地域に根付く人材を育成**

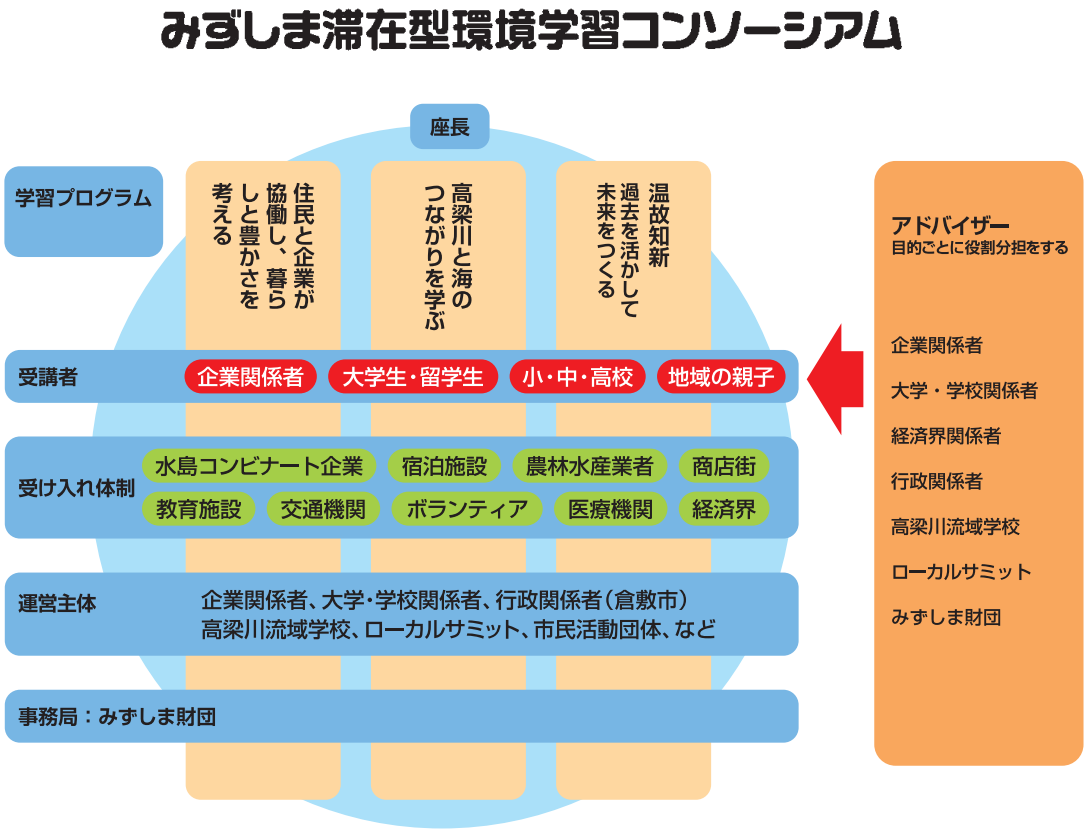
G7 倉敷教育大臣会合「倉敷宣言」の具現化

2030 年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標（SDGs）」との関連

経済成長・社会的包摂・環境保護の 3 つの主要素の調和

イノベーション創出と暮らしや自然環境が調和する未来社会の実現に向けた英知と努力を世界の人々が学ぶ。高梁川流域と瀬戸内海の自然、文化、暮らしに直接触れる滞在体験型学習を通じて地域社会の持続可能性を発見。未来を担う若者たちの思いを込めた流域のビジョンづくり。

組織体制



委員名簿（順不同）

・萩原 邦章（会長）	萩原工業（株）代表取締役会長、（一社）岡山経済同友会 顧問
・伊東 香織	倉敷市 市長
・井上 峰一	倉敷商工会議所会頭・株式会社いのうえ 代表取締役社長 学校法人 関西学園 関西高等学校 理事長
・大久保憲作（監事）	（一社）高梁川流域学校 代表理事、倉敷木材（株） 代表取締役会長 （株）FM くらしき代表取締役社長
・梶谷 俊介（監事）	ローカルサミット in 倉敷 実行委員長 岡山商工会議所 副会頭、岡山トヨタ（株） 代表取締役社長
・槙野博史	岡山大学　学長
・岡　浩二	水島の未来を考える会　会長
・尾崎 浩子	水島おかみさん会 会長
・古川　明（副会長）	（一社）高梁川流域学校理事、日本ケミカル機器（株）顧問 おひさまエナジーステーション（株）顧問
・高橋香代	岡山大学専任理事（おかやま地域発展協議体委員長）

（企画・運営事務局）

・吉田 淳一	萩原工業（株）取締役執行役員事業支援部門長兼総務部長
・坂本 万明	倉敷商工会議所　倉敷未来プロジェクト 委員
・土井春美	倉敷市経営企画部倉敷移住定住推進室　室長
・三村　聡	岡山大学 地域総合研究センター センター長・教授
・福田憲一	（公財）みずしま財団 副理事長
・藤原 園子	（公財）みずしま財団 事務局長
・塩飽 敏史	（公財）みずしま財団 理事・研究員、（一社）高梁川流域学校監事

2. 事業内容

2-1 ライデン大学研修受入（5/29）

報告：（公財）みずしま財団　塩飽敏史

【資料】

資料提供：岡山大学 地域総合研究センター　岩淵　泰

【目的】

大規模な工業地域がある倉敷市水島地域は、農業としての干拓の歴史、転用と埋め立てによる工業化によって地域が開発された。瀬戸内海の地域開発と生産の現場を見る事で、産業と環境の共生を考える。

【実施方法等】

- 日時：2019（令和元）年 5 月 29 日（水）13：30～17：00
- 参加者：留学生（オランダ・ライデン大学）24 名、教職員（担当教官：木島先生、難波先生、岩淵先生）3 名　計 27　名
- 場所：JFE スチール西日本製鉄所、倉敷市環境学習センター、水島港
- 講師：中西雅裕氏、（倉敷市環境監視センター職員）、土倉功氏（倉敷市環境学習センター職員）、古川明氏（みずしま滞在型環境学習コンソーシアム副会長）、塩飽敏史（（公財）みずしま財団）

【当日の様子】

13：30～15：00　JFE スチール西日本製鉄所で生産の現場を見学した。

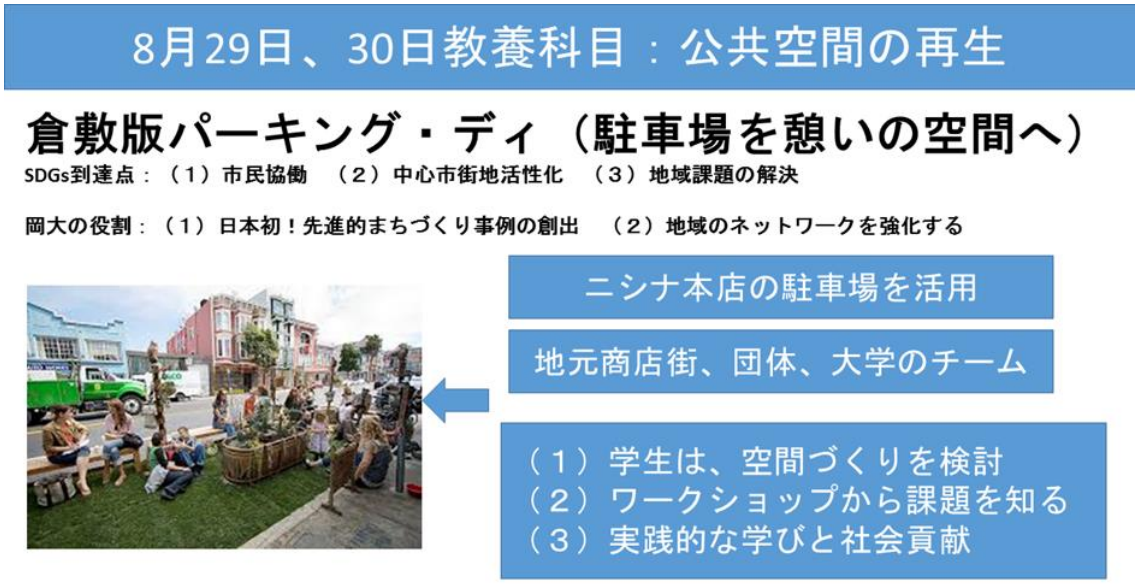
15：15～15：40　倉敷市環境監視センター・環境学習センターで行政の環境監視の仕組みを聞いた。

16：00～17：00　水島港クルージング。閉鎖性海域である瀬戸内海の環境変化と海から見たコンビナートについて解説を聞いた。

2-2　岡山大学実践型社会連携授業（8/29-31）

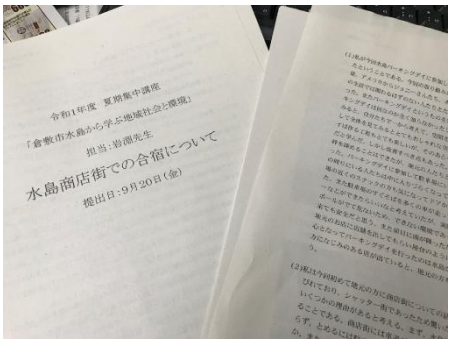
報告：岡山大学 地域総合研究センター　岩淵　泰

【資料】



【概要】

8 月 29 日（木）～8 月 31 日（土）までの三日間、学生 24 名（(岡大 20 名、熊本大学 3 名、金沢大学 1 名）と教職員 4 名が参加した。スーパーマーケット・ニシナ本店跡地を使ったユニークなまちづくりを行った。Jonny Fain 氏（ポートランド市公園局）の指導により、パーキングディを行った。パーキングディは、車中心の空間を人間が居心地の良い空間に変えることで、まちづくりに楽しく触れるイベントである。みずしま財団は、公害の経験を講義し、現地では裁判闘争の記憶を学生たちに説明した。その後、萩原工業のブルーシート工場を見学した後、パーキングディに取りかかった。合宿終了後、レポートを提出し、その内容はみずしまのまちづくりに活かされるようにした。



【当日の様子】

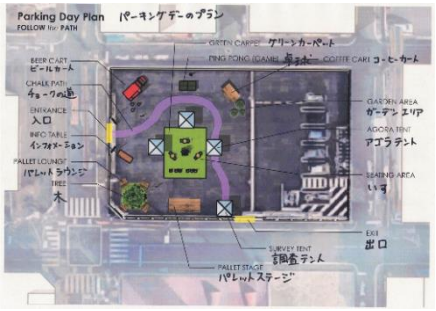
8 月 29 日(木)

9：30~12：00　レクチャー「水島の発達史～地域開発、公害から環境へ～」
講師：岩淵泰（岡山大学地域総合研究センター）、塩飽敏史（みずしま財団）

13：00~14：30 ポートランド版・パブリックスペースの作り方
講師：Jonny Fain 氏

15：10~16：00　商店街の楽しみかた
講師：前田芳男（岡山大学地域総合研究センター）

16：10～16：30　Park Day に向けて



8 月 30 日（金）

9：30～11：10　水島の公害問題を学ぶ

講師：太田映知氏（倉敷市公害患者と家族の会会長）

11：20～12：30　水島商店街のエトセトラ

講師：藤原義昭氏（水島商店街振興連盟会長）

14：00～16：00　水島の産業を学ぼう　～萩原工業（株）工場見学～

案内・解説：吉田淳一氏（萩原工業（株）取締役）

17：00～20：30　パーキングディへの参加

8 月 31 日（土）

9：00~11：00　振り返りの会

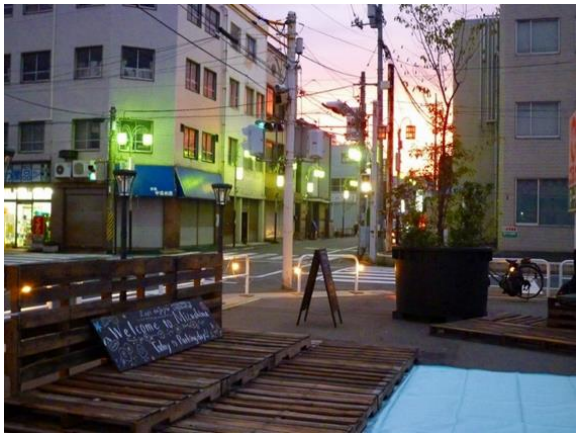
11：30~12：30　水島環境クルージング

2-3　ミズシマ・パーキングデイの実施（8/30）

報告：みずしま滞在型環境学習コンソーシアム　副会長　古川　明

【概要】

本企画は、水島のまちを楽しく居心地のよいエリアにしていこう！という趣旨から、3 年前に取り壊しとなった水島商店街発展の象徴「仁科百貨店跡地」を対象とし、街づくりの第一歩を記す行事として立案したものでしたが、相前後して、「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」のモデルツアーに織り込もうと言う案が浮上してきたことから、岡山大学地域総合研究センターのツアーカリキュラムの１つとして、岡山大学他、熊本大学、金沢大学の学生さん達の参加を得て実施することとなりました。当日は、岡山大学の研究員として、アメリカオレゴン州ポートランドから来日中のサウミャ・キニさんと、本企画の総合プロデュースを手掛けてくれた，同じくポートランド市公園局のジョニー・フェインさんも参加、準備した使用済みパレットを巧みに組み合わせて、素敵な空間を演出、日が落ちてから、ロマンティックな雰囲気の中で、立ち寄ってくれた商店街の人たちも立ち寄り、学生さん達と親しげに交流する場面も見られるなど、豊かな時間を演出することができました。次回につながる予感を感じる素晴らしい行事となりました。



2-4　水島学講座（国際編）「海外に出て見えたこと」（9/14）

報告：（公財）みずしま財団　藤原園子

【目的】

商店街の中にあるリノベーション物件「ゆとろぎ館」を使って、若い世代と地域の方が地域活力の問題点や可能性を話し合うことを目的としました。

【実施方法等】

水島学講座（国際編）を開催しました。グローバルな社会で活躍できる高校生の育成や異文化理解の促進を目指した海外研修に参加した高校生の視点を通じて海外の様子について学びあいました。

・　日時：2019（令和元）年 9 月 14 日）13：30~15：30
・　参加者　高校生 12 名、大人 8 名　計 20 名
・　場所：ゆとろぎ館（倉敷市水島東常盤町）10-8
・　話題提供：倉敷古城池高校オーストラリア研修参加者
　　倉敷南高等学校カンボジア研修参加者
・

【当日の様子】

13：30　司会　みずしま財団　塩飽敏史
13：35　話題提供「オーストラリア研修」（倉敷古城池高校）
14：10　話題提供「カンボジア研修」（倉敷南高校）
15：10　グループディスカッション
15：30　終了

【成果】

海外研修で自分と異なる文化や慣習に触れや学んだ高校生が、水島地域の人にその学びを伝えるという機会を通して、異文化交流について考えを深めることができました。参加した地域の方にとっては高校生の意欲的な姿勢を知る機会、多様な価値観について話し合う機会となりました。

【当日の参加者の声】

異文化交流のためにできること　あるいはもっと異文化交流するには何が必要？

- ✧ 自分からも話す意思が大事！
- ✧ 異文化を学び、相手のことをよく知ることが大事！自信をもって！
- ✧ 可能性を信じて！英語は Must！
- ✧ 若いっていいですね。いっぱい教えられました。
- ✧ 海外研修をする機会を増やし、高校生である私たちが将来、貧困などで困っている国を助ける！！
- ✧ 勇気をもって相手とコミュニケーションを！（恥ずかしがらずに）
- ✧ 先入観をあまり持たないことが重要。一つの視点で物を見ない。国の数、人の数だけ考え方があり、何がいいのか、考えることが大切だと学んだ。
- ✧ 積極的かつ主体的な行動と会話を心がける。
- ✧ まずは海外のことに関心を持つ事！！これが無いと始まらない、日本と異なる慣習を学び、知識を持つこと。こうすることで、国籍が違ってもお互いにお互いを理解することが出来ると思う。
- ✧ 交通ルールの徹底が必要
- ✧ 先進国、途上国、人種、宗教、文化なんて関係ない！！みんな同じ地球に住む人。これから交流に必要なのは、共存、協働だと私は思います！
- ✧ 知識を身につけて言語を身につけて、国境を越えても本当の“対等”な立場に立つこと。
- ✧ 自分の文化も相手の文化も大切にする。
- ✧ まずは国を知る。海外のボランティアに積極的に参加すること。
- ✧ 外国人と相手の目を見て、積極的に話をする。
- ✧ 自分の文化を知ること。
- ✧ 積極的な Communication が必要。「挑戦」しないと何も始まらない。
- ✧ 異文化交流。色々な国へ、色々な所へ出かけて、経験してきてください。

2-5　高梁川ミーティング in 水島（9/27）

報告：みずしま滞在型環境学習コンソーシアム副会長、（一社）高梁川流域学校理事
古川　明

【目的】

高梁川流域の河口部に位置する倉敷市水島地域は、わが国でも屈指の鉄鋼・石油化学・コンビナートを有する地域である。しかし、地域では中心商店街の衰退や空洞化が進み、活力が失われつつある。その一方で、商店街の両側に位置する福田・連島地区では、宅地の造成により人口増が見られたり、木村式自然栽培等による環境に優しい農法の展開や従来から持続している漁業が現在も営まれている地域でもある。この水島地域の活性化と持続可能な地域づくりを目指す様々な取組が、それぞれの組織・団体によって行われているが、互いの連携が、必ずしも十分に図れているとは言えず、活動の効果が限定的になっているものと考えられる。そこで、水島地域で活動する各団体が一堂に会し、情報交流を行う機会を作ることにより、相互に活動を理解し、今後の協働の可能性を探ると共に、新たな連携の誕生によって、商店街を含む,町の活性化に向けた取り組みの加速・促進を図ることが本ミーティングの目的である。

【実施方法等】

- 日時：2019（令和元）年 9 月 27 日（金）13:30～19:30
- 参加者：30 名
- 場所：水島家守舎 NAdia ゆとろぎ館、水島商店街、水島港
- 司会：坂ノ上博史（(一社）高梁川流域学校）

【当日の様子】

13：30　開会

13：40～14：10　水島の現状と課題（4 年間のあゆみ）

（一社）高梁川流域学校理事　古川明が、水島商店街を中心とした地域の現状と課題について説明し、その解決を目指して立ち上げられた「水島家守舎 NAdia」の活動を紹介した。

14：15～15：15　各活動団体・組織・学校関係者による活動の紹介

水島地域の資源を活かし、持続可能な地域づくりを目指して活動する各団体関係者から、現在の取組と課題、将来展望等についての報告を行った。

「学びを通じた地域づくり～協働による環境学習の取り組み～」

（公財）みずしま財団理事・研究員　塩飽敏史

「自然栽培と食育教育の普及促進」

＆Garden 主宰　田辺綾子

「ミズシマ盛り上げ隊の活動紹介」

ミズシマ盛り上げ隊副会長　野呂家徳

「子ども食堂について」

水島子ども食堂ミソラ　井上正貴

「古城池高校との連携と公民館活動」

倉敷市立福田公民館館長　今田尚登

「高校の探求授業の支援」

未来創生学院理事　三宅範行

「社業の紹介とコンビナートクルーズを柱とした活動報告」

水島通船株式会社社長　宗田憲明

15：15～15：30　休憩

15：30～16：30　グループディスカッション

ファシリテーター：坂ノ上博史（(一社）高梁川流域学校理事）

各活動団体の発表を受けて、「環境学習のまちみずしま」「ニシナ跡地プロジェクト」「公園アート」「高校生（若者）と地域とのつながり」の 4 グループに分かれて、現在の課題解決に向けてどんな取り組みが必要か、自分にどんなことができるかをディスカッションした。本ミーティングで初めて顔を合わせた団体もあり、地域課題の解決に向けた協働のきっかけづくりをすることができた。

16：30～18：00　協働の現場ツアー

ミーティング終了後、水島での協働による地域づくりの取組みの実践事例である、「ニシナ本店跡地」「東常盤町第 2 公園」「臨鉄ガーデン」を巡るツアーを実施した。

18：30～19：30　ナイトクルーズ

希望者は、「水島コンビナートクルーズ」に参加していただき、倉敷古城池高校生の解説で水島コンビナートの活動や企業同士のつながりなどについて理解を深めた。

臨鉄ガーデンの様子

ナイトクルーズの様子

2-6　モデルツアー「SDGs を現場で学ぶ」（11/23-24）

報告：（公財）みずしま財団　塩飽敏史

【目的】

「SDGs を現場で学ぶ　コンビナートと隣り合うまちと農漁業の今」と題したモデルツアーを実施しました。SDGs への理解を深め自分事としてとらえることができる内容を提供できるか、広報の方法はどうか、プログラムを精査することを目的としました。

【実施方法等】

- 日時：2019（令和元）年 11 月 23 日（土）～24 日（日）
- 参加者：9 名

【当日の様子】

参加者は、浅口市寄島町で漁業者の方から現在の海の環境と漁業の現状、そして海底ごみ回収の取り組みについてお話を伺い、ごみの分別体験をしました。昼食には寄島でとれた海の幸を食べました。

午後は、バスにて水島に移動して、鴨ヶ辻山の展望台から水島の地域開発と公害の歴史、その教訓をどう活かすかについて、レクチャーを受けました。

その後、再びバスにて、水島地域中心部商店街に位置する「水島家守舎 NAdia ゆとろぎ館」に移動しました。EPO ちゅうごく岩見暢浩氏のコーディネートで振り返りを行い、本日のフィールドワークで見聞きしてきたことが、どのように SDGs につながっているのかを参加者同士で話し合いました。宿泊は水島に今年できたルートイン倉敷水島を利用しました。

2 日目のプログラムは、水島愛あいサロン芝生広場で開催されている「水島朝市」の見学からスタートしました。朝市の世話役の岡氏にお話を聞いた後、その後参加者はゆとろぎ館に移動し、NPO 法人岡山県木村式自然栽培実行委員会で事務局をされている田辺綾子氏に自然栽培とはどのようなものか、持続可能な社会にどうつながっていくのか、レクチャーを受けました。

昼食は、木村式自然栽培のお米を使ったバラ寿司で、レクチャーいただいた内容を思い起こしながらおいしく頂きました。瀬戸内の幸も堪能しました。

午後の時間は、水島家守舎 NAdia の古川明氏に水島でのまちづくりの取り組みについてお話しいただき、実際に学生さんがすべり台にイラストを描いた公園を見学しました。

最後は、古川明さんの解説による水島コンビナートクルーズで、世界とつながる水島港や、コンビナート内の企業同士のつながりなどを学んだ。

【参加者の感想】

参加者からは、「水島での学びを通じて、自分の地域を改めて考えようと思った」、「水島の住民の皆さんの地域への強い愛着を感じた」、「まちづくりは、つながりが大事」、「コンビナートだけではない、水島地域の新たな側面を発見することができた」、「まちづくりもっと頑張れ！」といった声が寄せられました。

【成果】

水島における木村式自然栽培の話や漁業、まちづくりなど、環境学習を”生活丸ごと”ととらえる水島での持続可能な社会づくりに向けた学びの実践を積み上げることができました。

コンビナートに隣接する地域での農漁業の現状を参加者が知ることができる内容でした。持続可能な社会づくりに向けて「食」の重要性を改めて認識し、木村式自然栽培による取り組みは環境への配慮と経済面を両立させた事例として SDGs の視点から非常に学び深い内容でした。

コンビナートクルーズでは、企業のつながりを実際に現場で学ぶことができました。振り返りを行うことで、事例から学んだことを参加者が自分事として考える時間となった。

SDGs を自分事としてとらえ、今後は地元の農産物や魚介類を選択していきたいという参加者からの感想があり、参加者の感想等からは、プログラムの内容や時間設定について一定の評価を得られたと考えますが今後、コンソーシアム体制づくり検討会のメンバーで評価を行っていきたいと考えているところです。

【参加者からの指摘】

モデルツアーということで、参加者の視点でコメントを寄せていただきました。

ちらしについて

立てておくタイプのラックに置いてある場合についてですが、タイトルが中央に書いてあるので、何のチラシなのかが分かりづらかったです。

開催の案内について

数日前に催行案内のメール連絡があると良いと思います。

集合時間について

丁度良かったです。

全体の趣旨説明

このツアーで参加者は何を行うのかという概要を把握することができました。参加者の自己紹介の時間があったのも良かったです。

漁業の今（寄島町漁協）

漁師さんに直接お話を聞くことができたこと、海底から回収されたごみの分別を行ったこと、船の上で寄島町の美味しい海産物（カニ、シャコ、サワラ、タコ飯）をいただいたこと、どれも印象的な体験で、このツアーの中で最も記憶に残っています。海底ごみの回収の話しを聞いたり、ごみの分別を行った後で、船上で食したカニの殻を海へ返したことに、ゴミとはなんだろうと考えさせられました。

ごみの分別では、手袋や火箸は用意してありましたが、服や靴が汚れることがあるので、ツアー催行前に内容を知らせしておく方が良いと思いました。船の上の食事では、手を洗う水や手ぬぐいが必要でした。到着時、出発時と 2 回、手洗いのある近くの運動公園へ寄っていただいたのは良かったです。

移動

天気は快晴で、瀬戸内海が青く、きらきらと輝いており、美しい眺めでした。車内での「亀島

山の頭と体を分断する形で道路が走っている」という解説が記憶に残り、水島の全体像を展望したときに、位置の把握に役立ちました。

展望台から見るみずしまの全体像

展望台からの眺めは、薄くもやがかかっていたため、鮮明に見ることができませんでしたが、解説が分かりやすかったので、工場と住宅地の位置関係、緩衝緑地帯の位置、三方向を丘陵で囲まれた水島の地形を一望のもとに把握することができました。この後、山上から見た工場付近をバスで通過し、その大きさを目の当たりにしました。

ワークショップ

本日の体験で得たそれぞれの参加者の感想を全員で共有し、それを SDGs の１７の目標に当てはめていくというワークショップを行いました。2 日目の「農業の今」の講演の後にも同じことを行いましたが、この 2 日間で「SDGs で物事を考える力」を養うことができたと感じています。この思考方法を日常の諸活動においても実践していきたいと思いました。

ホテルルートイン倉敷水島

宿泊客には、仕事を目的とする利用者の他に、国内やアジアからの旅行客が大勢おられたことが印象的でした。ホテルは商店街に近く、街歩きには便利な場所でした。

水島朝市見学

水島朝市は、地元の農産物や総菜などの販売者と、骨董や花きなどを扱う業者が出店する朝市でした。家の近所にあるお寺の縁日でも、数年前までは、こうした屋台でにぎわっていたことから、この朝市の雰囲気を懐かしく感じました。朝市に来られている多くは、地元の年配の方のようで、この朝市がこの先も継続していくのか一抹の不安を覚えました。朝市を主催する水島の未来を考える会の岡さんのお話しからは、水島への愛情や朝市に込められた情熱を感じることができ、これからも朝市が続いていってほしいと思いました。

農業の今

私は、行楽や余暇の過ごし方としての魚釣りや園芸については経験がありましたが、職業としての漁業や農業に触れる機会はこれまでありませんでした。そのため、それらに従事されている方から直接聞くお話しは、とても新鮮に映りました。職業の選択肢として漁業や農業を考える場合、特にこれから社会人となる世代にとって、大きな学びとなるように感じました。昼食のバラ寿司もおいしくいただきました。

ここで、前日と同様にワークショップが行われましたが、2 日目ということで、前日よりもスムーズに SDGs による思考を行うことができました。

みずしまのまちなか探検

みずしまのまちなか探検では、古川明氏より、子どもや高校生、大学生などの若い世代が参加する水島のイベントの実践について、お話を聞きました。その後、大学生が彩色された公園の滑り台を見学しました。

水島コンビナートクルーズ

午後から天気が崩れるとの予報でしたが、クルーズの途中で小雨が降る程度で済み、海からの眺めを満喫することができました。船に乗るというわくわくした感覚、岸にそびえる人工物の大きさに、昨日車窓から見た瀬戸内海の風景が重なり、記憶に残りました。古川さんの解説は分か

りやすいでしたが、走る船の音で声が聞き取りづらいのが残念でした。

船会社の待合室で、2 日間の感想を参加者それぞれが発表し、共有しました。

水島臨海鉄道にて倉敷駅へ、解散

水島臨海鉄道では駅に停車する度に、高校生や大学生と思われる若い世代の方が次々と乗車されるのを目にしました。1 日目にバスを降りてからは、徒歩と水島臨海鉄道を利用しての移動でしたが、無理なく移動することができ、水島商店街周辺はとても便利な場所だと思いました。解散時間も帰宅に丁度良かったです。

2-7　倉敷古城池高校の取組

令和元年度 岡山県立倉敷古城池高等学校　活動報告

報告：岡山県立倉敷古城池高等学校

「総合的な学習の時間」の探究活動として、本格的に水島地域連携を開始して本年度で２年目となる。

昨年度、「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」が発足し、発起人の一人である古川　明さんを中心に水島地域での活動をご支援いただき、本格的な水島地域連携をスタートすることができ、12 月には「同コンソーシアム」シンポジウムで、1 年間の活動について報告を行った。

2 年目となる今年度、2 回目となる「同コンソーシアム」シンポジウムが 11 月に開催され、2 年目の活動についての報告を行った。

本校では、第 2 学年の「総合的な学習の時間」の分野別探究活動において、「社会学分野」に所属する生徒が中心に水島での活動を行っている。

活動内容は、大きく 2 つに分類される。1 つは、地域の方々と連携しての活動や地域を知るための活動。もう 1 つは、水島振興のための本校独自の取組である。

「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」シンポジウムでは、本校生徒がこれらの活動について報告した。ここではその概要を報告する。

Ⅰ　地域の方々と連携しての活動や地域を知るための活動

地域の方々と連携しての活動や地域を知るための活動については、① 水島コンビナート企業を船上から紹介するクルーズアナウンス、② 水島こども食堂ミソラさんでの古城池企画の実施、③ 水島に熱い思いをもって活動されている方々の思いを引き継ぐ「聞き書き」等がある。いずれも 1 年目の活動を引き継いだものである。これらに加え、今年度は、④ みずしま財団さんが実施する高校生の水島に対する意識調査にも若干であるが参画させていただいた。

①　水島コンビナートクルーズアナウンス

水島港の企業 10 社を約 1 時間かけて船上から紹介する水島コンビナートクルーズアナウンスに、今年度、新たに港の陰の主役であるタグボートも紹介するために、タグボートの会社を訪問し学んだことをもとに昨年度作成したコンビナートマップを改訂し、7 月に船上での実践リハーサルを、そして 8 月と 9 月に本番を行った。9 月の本番ではナイトクルーズを体験させていただいた。

②　こども食堂の古城池企画

水島こども食堂ミソラさんでの古城池企画は、メニューづくりから食材のカンパ、当日の企画・運営等、ミソラのスタッフの皆さんに全面的にご協力いただき、8 月、12 月、3 月の 3 回実施した。いずれの回も本番の 1 ヶ月前の定例の会が終わった後に、これもまたミソラさんのスタッフの皆さんの全面的な協力で試作会を開かせていただいた。

今年度はさらに倉敷青年会議所の「ひやさい 2019×ＳＤＧｓ」の子ども食堂での催しにも招待され、フードバンクの方との交流等を通じ、食品ロスについても学んだ。

③　「聞き書き」

水島の地域を知ること、また、水島振興に熱い思いを持っている方々の思いを引き継ぐことを目的に、まず備中「聞き書き」実行委員会の研修に参加し、そして水島の重鎮の方々にインタビューを行い、それを録音した後、全てを文字に書き起こし、その後質問事項を削り、話し手の言葉だけをつなぎ合わせて作品とする。

今年度は、瀬戸内エンジニアリング株式会社の会長でもあり嶋田製菓の店主でもある桐野宏司さんと、みずしま滞在型環境学習コンソーシアム副会長の古川　明さんのお二人にお話をお伺いし、水島のこと、また水島への想いを学んだ。

④　高校生の水島に対する意識調査への参画

今年度、みずしま財団さんが主宰する水島地区及び近隣の高等学校の全校生徒を対象とした意識調査において、企画段階で質問事項の一部を本校生徒が担当させていただけることとなった。本年度、本校は、水島地域の見える化をテーマの一つとしており、見える化を進めるための参考資料とすることを目的に参画させていただいた。調査結果は、高校生の水島への関心の低さを改めて感じるものとなった。

Ⅱ　水島振興のための本校独自の取組

水島地区は、岡山県の製造品出荷額の約半分を生み出している水島コンビナートがある一方、隣接する水島商店街を中心とする商業地区は、かつての賑わいが失われた状況であることを受け、水島振興に向けた本校独自の取組も積極的に行っている。

昨年度は、フリーペーパーを作成するなど、水島の街の魅力を発信する活動を行ったが、本年度は、水島の街に人を呼ぶための「水島プラットフォーム」プロジェクトを立ち上げた。

・　「水島プラットフォーム」プロジェクトの立ち上げ

今年度相次いで、全国区のビジネスホテルが水島の中心街に開業した。倉敷ケーブルテレビのニュースでこのことが取り上げられ、これらのホテルの開業により、水島コンビナートのメンテナンス業者が年間数千人規模で、水島の街に長期間滞在することとなることが報道された。

これを大きなチャンスと捉え、長期滞在者を水島の街そして人々と繋げ、水島の良さに触れてもらうことで、長期滞在者を水島振興のための関係人口にすることを目的に取組を始めることとした。これが「水島プラットフォーム」プロジェクトである。

具体的には、フリーペーパーやチラシ、スタンプラリーの用紙や水島を紹介した動画等をビジネスホテルの特設コーナーに置くとともに、水島での居場所づくりを推進するというものである。

・　「水島プラットフォーム」キックオフミーティングの開催

今年度 11 月に、「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」シンポジウムにて、「水島プラットフォーム」プロジェクト構想について水島の方々に披露し、プロジェクトを開始した。

しかしながら、実際に活動を始めると、ホテルや水島の方々への協力要請、取材や動画撮影など活動は多岐にわたり、思うように進めることができないことから、生徒たちは、自分たちだけの力では効率的にプロジェクトを進めることが難しいこと、次の代へ引き継いでいかなければ実現できないこと、地元の方々と築き上げた絆も含めて次の代に効率的に引き継ぐ必要があること等を感じることとなった。

これらの課題に対しての打開策が「水島プラットフォーム」を実体の伴った組織、水島の方々と本校の教員・生徒が一堂に会する場とし、情報の共有や活動の報告、お願いや協議等を行うことで、効率的に事業を進めると共に効果的に引き継ぎを行うというもので、この提案に対し、水島の方々は快く承諾して下さり、次年度から施行する運びとなった。

これを受け、本年 1 月 30 日に「水島プラットフォーム」キックオフミーティングを開催し、持続可能な水島地域連携の礎を築くことができた。

本年度も水島の方々にご支援いただきながら様々な活動をさせていただいた。今年度最後の報告会は、3 月 23 日（月）、本校に水島の方々を招待しての課題研究発表会である。

2-8　小・中学生向け教材開発

みんなで作り、みんなで使う地域学の教科書－高梁川流域を読み解く活動の記録を蓄積する－

【目的】

小中学生、高校生が自分の暮らす地域の歴史や産業、社会の変化を学べるテキストを作成することを目的に、岡山大学の授業と連動して、テキストを使った協同学習の授業方法を開発する。

このことにより、水島をはじめ高梁川流域をフィールドとした実践型社会教育プログラムの開発となり、「滞在型環境学習都市」の形成に寄与することを目指す。

【実施方法等】

将来の環境学習ツアーの実験の位置づけで、岡山大学の授業の受講学生だけでなく、他大学や小中・高校の教職員などが参加する聞き取り調査（バスツアー）を行った。

（1）授業の概要

授業名：小中学生の協同教育のための教材開発（岡山大学　教養科目）

開講時期：令和元年 10 月～11 月（岡山大学の第 3 学期）

受講者数：7 人

（2）授業スケジュール

回	月　　日	内　　容
1	10 月 4 日	オリエンテーション、チーム編成、課題の説明
2	10 月 11 日	教材づくりの方針決定（グループ作業）
3	10 月 18 日	教材づくり、聞き取りの準備（グループ作業）
4－6	10 月 27 日	倉敷市に出向いて聞き取り調査実施 ※PSU-CBL 研修に参加の他行の教員等が同行、共に活動する。
7	11 月 1 日	教材の仕上げ、発表の練習
8	11 月 15 日	教材の発表

（3）聞き取りによる地域学習

・　日時：2019（令和元）年 10 月 27 日（日）

・　参加者：岡山大学生、CBL（コミュニティベースドラーニング）研修参加者

・　場所：水島家守舎 NAdia「ゆとろぎ館」

6 つのグループに分かれて水島の住民、コンビナート企業 OB 等に取材し教科書には載っていない人々の暮らしや仕事の様子、思いなどを聞き、グループごとで振り返りをする。振り返りは、①発見したことは何か、②感動したことは何か、③小中学生に伝えるべきこと、その本質は何か、④何か自分の中に変化はあったかの観点でまとめた。

（4）教材づくり

聞き取り調査結果をもとに、小中学生に伝えるべきことの主題を各自で設定し、それをもとに教材のタイトルを付けた。

作成した教材の素案をクラスで発表し、ピアレビューを繰り返し、最終的な教材を仕上げた。

【成果】

水島地域の経済成長と公害の発生、その時代の様々な人々の暮らしを知ることは、環境学習そのものといえる。この内容は、児童・生徒、学生の学習に限らず、行政職員、教員などにとって仕事に役立つものとなる。また、教材から学ぶことや、教材づくりの一連の活動に参加することは、様々な企業や組織の人材育成に資するものである。

SDGs の観点からも、高梁川流域は、水島コンビナートでの先端的な環境技術、上流域の里山資本主義的な循環型の暮らし、各地域の産業や歴史など、環境学習のための資源と環境に恵まれている。そこで、本取り組みで示した活動モデルを用い、宿泊を伴う学習プログラムを受け入れる体制を整え、新たな経済効果を生む地域活性化につなげることが期待される。滞在型環境学習都市の形成である。

そのためには、以下の事柄を検討し、必要な組織や仕組みを整えていく必要がある。

（1）有料のスタディツアーの実施

例えば、教員の免許更新のための定期的な研修の場として、高梁川流域を活用する。宿泊など、実際の旅行に関する業務は、旅行会社が実施すればよい。

この実施のためには、

① 研修生を受け入れ対応する人と組織の確保

② 宿泊受け入れのために、旅館・ホテルの協力、プログラム参加
農家民泊などのスモールビジネス創造

③ ツアーを催行する旅行会社の参加

などが不可欠である。

（2）教材やデータの活用と管理

地域の小中高校、大学を挙げて、本取り組みのような学習を行い、教材やデータをつくり続けることが重要である。これには、学校での「探究的学習の時間」などを用い、授業として取り組むことが考えられる。また、作成されたデータや教材を一括管理し、逐次更新していくプラットフォームが必要である。

（3）全体をコントロールする組織の整備

上記のような研修プログラムを開発したり、ツアーを企画したり、研修受け入れ組織及びインストラクターとしての人材を育成したり、学校教育への導入を促進するうえで、統轄的な組織が必要である。

2-9　地域づくりサロン（6/28）

報告：みずしま滞在型環境学習コンソーシアム　副会長　古川　明

【概要】

みずしま滞在型学習コンソーシアムの主眼でもある協働取組の輪を広げる目的で、地元教育関係者を中心に、行政、公民館、一般市民民の方々を対象に、普段なかなか顔を合わせる機会のない方々に、水島商店街の一画に居を構える街づくり団体の拠点「ゆとろぎ館」にお集り頂き、試験的に実施した肩の凝らない会。

冒頭、「ゆとろぎ館」の館長で、コンソーシアム副座長を務める古川から、会の目的と趣旨説明の後、参加者の自己紹介へと移っていった。経験・知識豊富な参加者の自己紹介を聞くうちに、場は和み、質疑応答も活発に行われるようになってきたが、そんな頃合いを見計らって、古川より、地方創生向けて高校改革と環境省の第５次五か年計画の紹介が行われ、会の後半は、軽食を取りながら、紹介された２題をテーマに自由に意見交換を行った。いずれも将来を占う重く複雑なテーマであることから、一つの方向性を見出すことはできなかったが、持続可能な社会の構築を目指していく上において、参考になるとの意見も多く、今後は、ＳＤＧｓもテーマとして織り込みながら、本会を継続していってはどうかとの建設的な意見も出始める中、閉幕となった。

【実施方法等】

- 日時：2019（令和元）年 6 月 28 日（金）18：30～20：30
- 参加者：12 名
- 場所：水島家守舎 NAdia ゆとろぎ館

3. シンポジウムの開催（11/8）

【概要】

みずしま滞在型学習コンソーシアムの一年間の活動を地域の方に報告し、理解を広げることを目的に開催しました。

【実施方法等】

日時：2019（令和元）年 11 月 8 日（金）　14：00～16：00

場所：水島障がい者支援センター　はばたき　地域活動交流室

参加者：50 名

【当日の様子】

古川副会長のあいさつの後、塩飽より、コンソーシアムの 2019 年度の活動について進捗報告を行った。

活動報告として、岡山大学岩淵泰助教より 8 月に開催したモデルツアーの報告と、倉敷古城池高校生から地域での学びの取り組み報告と活性化に向けた「水島プラットフォーム」構想の提案があった。

その後、坂ノ上博史氏のコーディネートで全員参加型のワークショップを行い、キーワードを元に持続可能な地域づくりの可能性について議論した。多世代が集まって話し合いが進んだ会場内は、大いに盛り上がり、様々な意見が出された。

本シンポジウムは、地域活性化をめざし、水島臨海鉄道駅前に飲食ブースを出展する「臨鉄ガーデン」イベントと組み合わせる形で開催した。参加者に案内を行い、終了後に、希望者は臨鉄ガーデンに参加してもらった。

【成果】

「水島での学びが限られている」という課題に対して、高校生や大学生が地域で数多く学んでいる様子をステークホルダーと共有できた。高校生から「水島プラットフォーム構想」という、地域の関係人口を増やすことを目的に、倉敷古城池高校が継続して関わる仕組みづくりについて提案があり、提案をもとに地域の関係者と率直な意見交流ができた。

高校生の発表では、水島への関心とイメージに関する高校生向けアンケート結果の報告もあり、若者へのアプローチ方法の手掛かりができた。

4. 外部への働きかけ

4-1 広報・情報発信

（1）おかやま環境ミーティング　分科会「水島発！環境学習のまちづくり」

【目的】

岡山県内の環境団体をはじめ、中学生・高校生・大学生の参加する「おかやま環境ミーティング」において、分科会を企画運営することを通じて、水島地域の学びの現状を伝え、「若者が学ぶ環境をつくるために」をテーマに話しあって交流し、水島の学びに関心を持つ人を増やすことを目的とした。

【実施方法等】

おかやま環境ミーティングの分科会の一つとして、分科会「水島発！環境学習のまちづくり」を運営し、高校生自身が自らの学びについて発表、情報発信をした。岡山大学地域総合研究センター岩淵泰氏が進行を担当した。

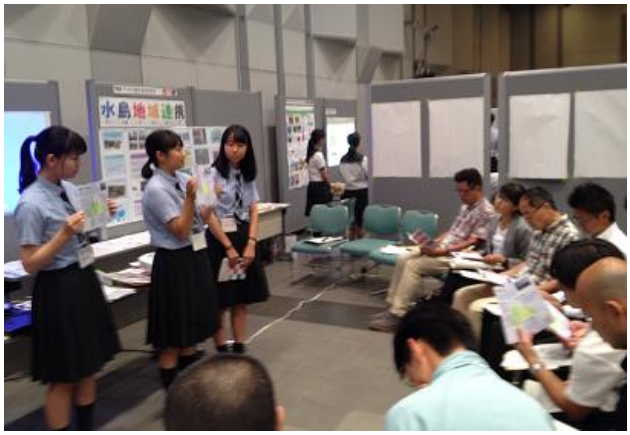
日時：2019 年 8 月 5 日（月）10：00～17：30（9：30 開場）

場所：岡山コンベンションセンター　1F イベントホール（岡山市北区駅元町 14 番 1 号）

主催：おかやま環境教育ミーティング実行委員会、岡山県、（公財）岡山県環境保全事業団

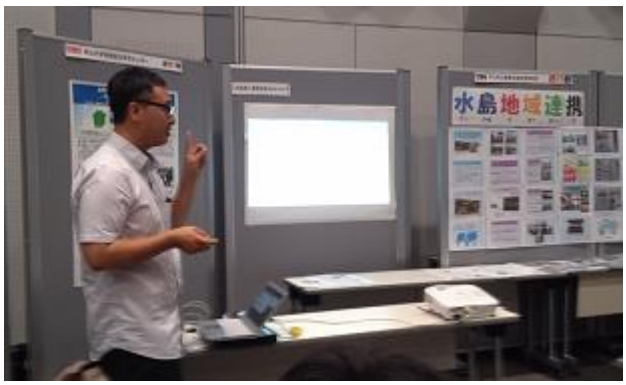
＜分科会よびかけ文章＞

倉敷市水島では、大学生や高校生といった若者の地域での学びを大人が支え、若者が地域づくりに参画することで持続可能な地域づくりを目指す取り組みが始まっています。実践事例をもとに、持続可能な社会づくりに向けた学びについて一緒に考えましょう。



【当日の様子】

- オリエンテーション
- ワッショイとーかーず活動紹介
- 岡山大学の地域学習の紹介
- グループディスカッション
  「高校生が魅力的に思うまちってどんなまち？」
  「そのために市民や行政が何を提供できるか」
- 全体での意見交換



【成果】参加者から「実現できそうな意見がたくさん出てよかった」と感想があり、水島における高校や大学と地域が連携した学びのスタイルを岡山県内で活動している団体や先生方などに知っていただくいい機会になった。

（2）第 7 回公害資料館連携フォーラム in 倉敷（12/13-15）

【目的】

全国から来訪する参加者に水島のこれまでの背景と現在の取組みを紹介し、水島が学びの地として認識してもらうことを目的としました。さらには他地域の方と対話し、より学びの質を高められるプログラムには何が必要か、水島の学びがどう価値づけられるのかを検討することをめざしました。

【実施方法等】

12 月 13 日には、フィールドワークでのナイトクルーズを担当しました。

地域づくり分科会で、多様な主体との連携や協働を進めている事例として、塩飽敏史（(公財)水島地域環境再生財団理事・研究員）が話題提供をしました。

日時：2019 年 12 月 13 日（金）水島フィールドワーク
14 日（土）基調講演、分科会
15 日（日）分科会、全体会

場所：川崎医療福祉大学

主催：第 7 回公害資料館連携フォーラム in 倉敷実行委員会

＜分科会よびかけ文章＞

公害地域再生は当事者の願いを基軸として進めるべきものですが、それだけではなく考え方が異なる様々な関係者と結びつかなければ、広がりを欠いてしまう場合もあります。そこで今回の分科会では、多様な主体との連携や協働を進めている二地域のこれまでの成果と課題から協働取組推進の要諦を見出していくこととします。

【当日の様子】

ナイトクルーズでは古川明氏（水島家守舎 NAdia、みずしま滞在型環境学習コンソーシアム副会長）が解説を担当した。

多様な主体との協働による公害地域再生をどう進めるか？ をテーマに話し合われた［地域づくり］分科会で、（公財）水島地域環境再生財団理事・研究員の塩飽 敏史が、水島の事例を報告した。水島の歴史、協働の背景、みずしま滞在型環境学習コンソーシアムへ発展した経緯と取り組み内容を報告した。尾﨑 勝也氏（ミズシマ盛り上げ隊）、吉田 成太郎氏（倉敷市環境政策部）のお二人から協働をすすめる関係者として感想を述べていただき、岩淵泰氏（岡山大学地域総合研究センター助教）が要点や課題についてコメントした。

【成果】

水島における学びを通じた地域づくりの取り組みについて、これまでのプロセスから現状、課題などについて、全国の活動団体や研究者の方に知っていただく機会となった。また、地域の関係者が参加・交流することで、外部からの意見を聞く機会となり、改めて自分たちの活動の位置づけを再認識してもらうことになり、協働を進めていく上での重要なステップになったと考える。

4-2　マスコミ報道

古城池高生徒らの発表があったシンポジウム

2019.11.13 山陽

水島にぎわい創出

産学官組織シンポ 高校生ら活動発表

倉敷市水島地区を若者の学びの場と位置付け活性化を目指す産学官連携組織「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」は8日、活動の成果を話し合うシンポジウムを、水島障がい者支援センター（同市水島東栄町）で開いた。

にぎわいの創出などをテーマに、水島でフィールドワークに取り組む学生らがこれまで手掛けた事業を発表した。

岡山大地域総合研究センターの岩淵泰助教のグループは8月、スーパーの駐車場にカフェなどを設けて憩いの空間をつくり、住民が交流する催しを試験的に行ったことを紹介。「地元への周知方法など課題も多かったが、学生にとって実りある体験だった」と振り返った。

古城池高の生徒有志でつくる「ワッショイ！とーかーず」は、水島コンビナートに年間数千人とも言われる設備メンテナンス業者が長期滞在することによる経済効果に着目。滞在者と地域をつなぐ「水島プラットフォーム」を提言し、地元の見どころを紹介するフリーペーパーや施設を巡るスタンプラリーの用紙をホテルに設置するなど、今後の構想を話した。

コンソーシアムは2018年に設立。シンポジウムには地区住民や企業関係者ら約50人が参加した。（太田知二）

山陽新聞社（2019/11/13）

5. 今後の展望

今年度の取り組みを通じて得られた成果として、まずは、まちの活性化を目指して活動を進めてきた地域の関係者と、若者の人材育成を目的とする大学や高校が、協働でまちの魅力を高める活動を実施できたことがあげられる。この活動に合わせて立ち上げられた「ミズシマ・パークマネジメント・ラボ」は、今後も活動の継続を予定しており、地域における魅力的な行事の増加につながると考える。

倉敷古城池高校のアクティブラーニングと連携した取り組みでは、地域で学んだ高校生から、「学校の先生として戻ってきたい」「将来後輩のために貢献したい」といった感想を得られ、地域への愛着を言葉にする生徒もいた。

高梁川ミーティング in 水島では、水島地域における様々な課題に取り組む団体が一堂に会して、それぞれの活動を発表、交流することで、団体間の新たなつながりを生み出し、新たな動きにつながっている。

水島学講座（国際編）では、今年度は、高校生自身が学びを提供する側になり、地域の人と異文化理解をテーマに交流をすることで、地域の側にも水島が多様な人を受け入れる地域であるとの認識が広まってきている。

地域の様々なステークホルダーと連携した滞在型環境学習ツアーの実施や、大学生・留学生の受け入れを積み重ねることによって、地域の人が環境学習に関わる機会を増やすことにつながっている。そのことで、地域の人は、「学び」の取り組みによって、地域に人が来る機会が増えたり、若者が学びに来ることで地域の活性化に向けたアイデアや実際の活動につながるといった、学びの価値を認識してきていると考える。

今後、これらの成果をさらに発展させるために、地域のステークホルダーの協力を得ながら環境学習プログラムを進めると同時に、まちの課題や将来像について語り合い、コンソーシアムの目指す方向性を説明し、広く意見を求める場としての「まちづくりサロン」の定期開催を行う。そのうえで、HP 等で情報発信し、本取組への地域住民や企業の理解を広げ、協力の輪を広げていきたい。

また、滞在型環境学習を進めていく上では、宿泊施設やセミナーハウスの確保が重要であると考えており、そのための情報収集を進めたい。

若者の地域への関心を高め、愛着を育むため、高校との連携をさらに深める。同時に、より地域に密接に関わりながら育つ小中学生が、地域について学ぶ機会を増やすため、今年度岡山大学と連携して作成した小中学生向けプログラムを地域の小中学校の教員の集まり等で紹介し、活用を働きかける。

これらの活動を通じて、地域の人々が、水島の価値を再認識しながら、学びを軸に地域の活性化とまちづくりが広がっていくように取り組みを進めていきたい。

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム活動報告書
2019 年度

発行日：2020 年（令和 2 年）3 月

発行者：みずしま滞在型環境学習コンソーシアム
事務局：公益財団法人水島地域環境再生財団（みずしま財団）
連絡先：〒712-8034　岡山県倉敷市水島西栄町 13-23
tel：086-440-0121　　fax：086-446-4620
E-mail：webmaster@mizushima-f.or.jp

本報告書は、環境省　平成 31 年度　持続可能な開発目標（SDGs）を活用した
地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業で作成しました。